

第7回 地域密着型デイサービス運営推進会議 報告書

開催日時	2019年10月4日 14:00～15:30
開催場所	桜町高齢者在宅サービスセンター 3F 介護者教室
参加者	<p>ご利用者家族： A 様（6回目）</p> <p>地域住民代表： 行政書士 B 様</p> <p>所在地管轄職員： きた地域包括支援センター 職員（以下：包括職員）</p> <p>桜町センター職員： センター長</p> <p>認知症対応型通所介護管理者（以下：管理者）</p> <p>事務員</p>
司会進行	認知症対応型通所介護管理者
書記	事務員
<p>【議事録】</p> <p>1. 2019年度の事業報告及び今後の取り組みについて（センター長）※添付資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢福祉部門「統括施設長」（ヨハネホーム園長）交代の報告。 ・財務収支はプラスマイナスゼロで目標を達成している。昨年4月の介護報酬改定及び総合事業の報酬単価引き下げの影響で一般デいの業績は下がっているが、認知デいの業績アップによりカバー出来ている状況である。 ・今後は人材育成を重視し、それぞれの事業の努力のみならず、全体として連携しさらに良い組織となるよう取り組んでいく。 ・10月1日消費増税にともなう基本単位数の変更があった。また、今までの処遇改善加算に加えて特定処遇改善加算が創設されている。当センターでこの加算を算定するためには、かなりの持ち出し額が必要となるため、現時点での取得は見合わせ、今後検討していくこととしている。 ・けやき通り商店会と本町センターを中心とした「みんなの安心・ささえ愛ネット」の活動など、地域交流に参加している。「セミナー農園」の援農ボランティア活動への参加などの交流を検討していく。 ・10月13日ヨハネ祭及び「ヨハネ祭 de かくれんぼ」、認知症探索アプリの紹介。 ・サブスタッフ養成事業の紹介。 ・11月15日小金井介護事業者連絡会による「介護みらいフェス」の案内。 ・今後も様々な地域の中での取り組みを重視していく。 <p>2. 2019年度上期の運営実績報告（管理者）※添付資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用率が上がり、目標利用率75%を維持している。 ・介護度5の方は週1回の利用、介護度3～4の方は週2～5回の利用などが多いため、添付資料のグラフは前回までの実人数計算から延べ人数計算に変更している。 ・H28年度は要介護1の方が多かった。現在の介護度の平均は2.8であるが、実際は要介護3～4の方が多い。年齢も80歳代後半から90歳代の方が増えている。 	

・重度の方が増えてヒヤリハットや同じ利用者に対する送迎ミスなども起こっている
ので信頼を失わないよう努めていきたい。

・10月17日、小金井市の実地調査の予定。

3. 「きた包括通信」の案内（包括職員）

・季節に合わせた熱中症注意などの話題、包括への相談案内など入れて発行している。

・小金井市は独居でも親族がいるという方が多い。

4. 意見交換、その他

・B様・・・特定処遇改善加算の件、他の事業所はどうなっていますか。

・センター長・・・2/3の事業所は取得を見合わせている。制度上、小規模の事業所は取得しやす
いようだ。

・A様・・・介護業界全体で地位向上できる制度になると良い。周りを見ていかないと職員が
流れていくこともあるので、皆に適用されるようになると良いと思う。

・センター長・・・働き甲斐や魅力あるメンバーの紹介など処遇以外の魅力も発信していきます。

・B様・・・利用者の入れ替わりの状況はいかがですか。

・管理者・・・今回は新しい特別養護老人ホーム開設の影響があったが、入浴希望者の積極的
受け入れをしたことや、入浴希望なくても重度の方の利用希望が増えている。

・B様・・・認知症の傾向はどうですか。

・管理者・・・きちんと病院受診出来ていない方もいる。小金井市内の認知症デイが少ないため、
困難ケースの受け入れ希望も多くなっている。

・A様・・・2～3年前に比べて利用状況が変わり業績が上がったのは、重度の方や困難ケー
スの受け入れを努力してきた結果だと思う。日頃の苦勞に感謝している。

・B様・・・独居率はどれくらいか。

・管理者・・・日中独居を含めて53%、完全独居の方は約15%。脱水や不安感、真冬と真夏
は特に心配。家族がいても介護力の問題もある。

・B様・・・親族がいても生活支援望めない環境の人も多い。親族がいるから安心ですねと言
われることにストレスを感じる場合もあるので、気配りが必要である。

・B様・・・事故や苦情の報告の際は、自分の見たものなのか、推測されることなのか、他の
ひとから聞いたことなのか、報告は主語をはっきりとさせ、目を離したことなど
はそのまま伝えた方が信頼出来る。起きてしまったことを正直に報告して次の
対策を考える方がよい。

5. 次回開催予定： 2020年4月頃

以下 余白